

平成 27 年度 居住者実態調査結果報告 要約

1. 調査目的

公社賃貸住宅居住者の実態を調査・把握することにより、公社事業のあり方や今後の管理計画に資するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査項目

居住者の状況、現住宅の評価、住宅改善、高齢化問題、子育て環境、団地内外の環境、コミュニティ状況等

3. 調査方法

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 母集団戸数 11,853 戸
抽出戸数 4,000 戸
回収数 3,074 戸 (回収率 76.9%)
- (3) 調査方法 訪問配布回収法

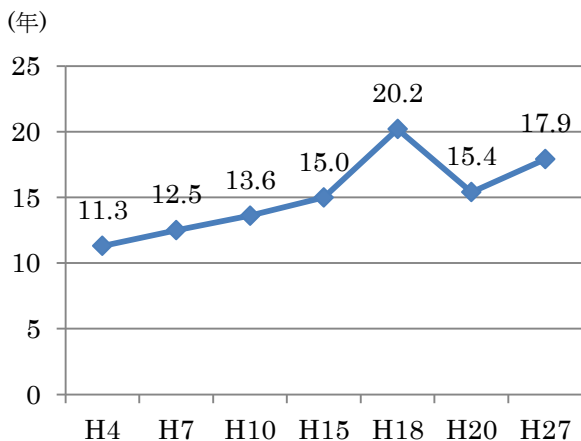
4. 全体傾向要約

- (1) 居住者の高齢化が進み、世帯所得が減少している。
- (2) 現在の住宅に対する満足度及び現住宅へ住み続ける意向を持つ人は、過去減少してきていたが、今回の調査では増加した。
- (3) 高齢者のためのサービスとして、「緊急時対応」「在宅医療サービス」「デイケアサービス」「訪問看護サービス」の希望が高い。
- (4) 子育てのためのサービスとして、「保育所」「学童保育施設」の希望が高い。
- (5) 団地・地域の居住者同士の今後のあり方については、助け合える関係を約 8 割の世帯が希望している。

5. 調査結果（主なもの） 注：(10)～(12)は、今回の調査より新規に追加した設問

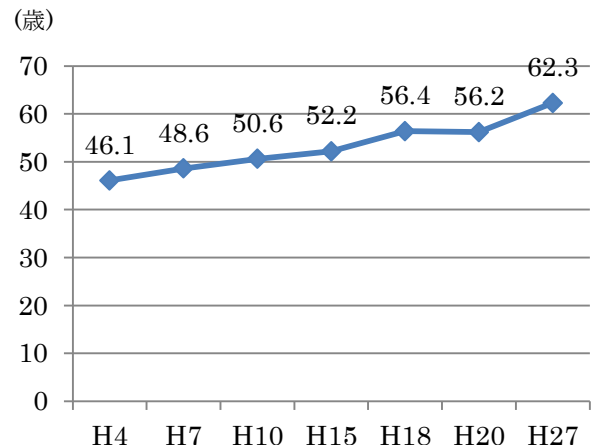
(1) 平均居住年数

平成 20 年度の調査に比べ、2 年 5 ヶ月長くなり 17.9 年となった。



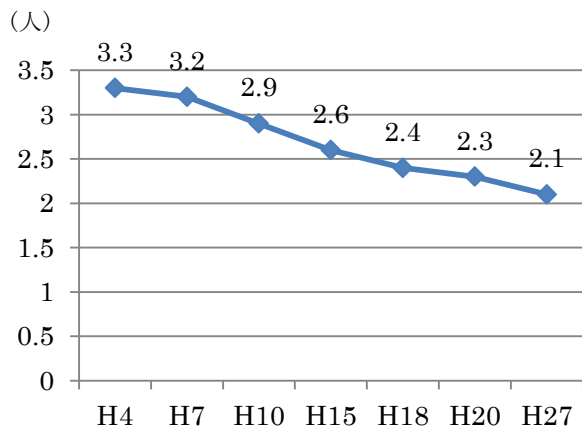
(2) 世帯主平均年齢

平成 20 年度の調査に比べ、6 歳 1 ヶ月増加し、62.3 歳となり過去、最も高くなった。



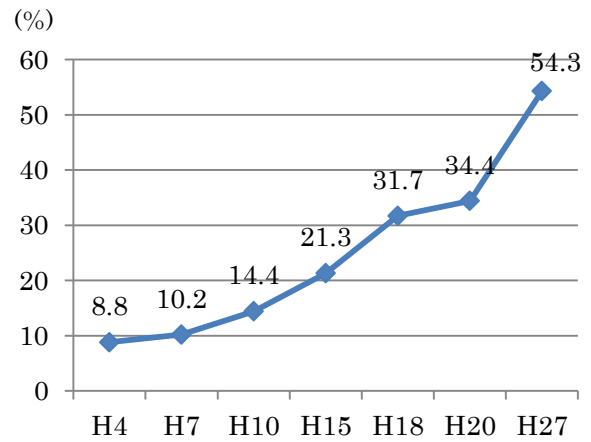
(3) 世帯平均人員

平成 20 年度の調査に比べ、0.2 人減り、2.1 人で過去、最も少なくなった。



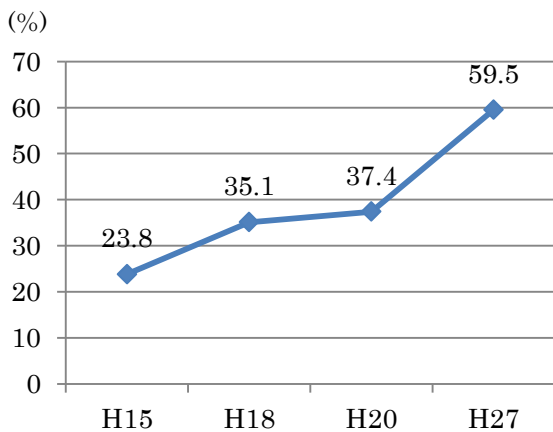
(4) 世帯主が 65 歳以上の割合

平成 20 年度の調査に比べ、19.9%増加し、54.3%で過去、最も高くなった。



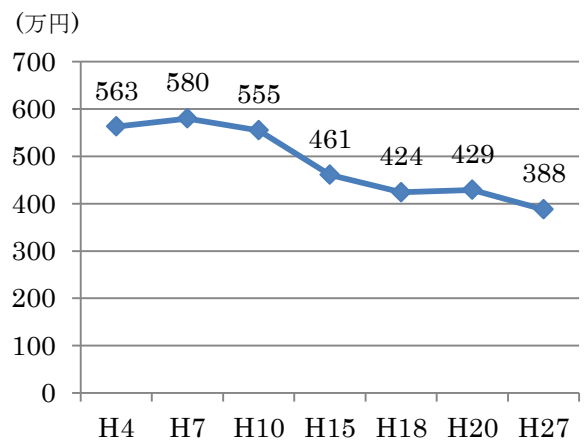
(5) 高齢者 (65 歳以上) のいる世帯割合

平成 20 年度の調査に比べ、22.1%増加し、59.5%で過去、最も高くなった。



(6) 世帯年収平均

平成 20 年度の調査に比べ、41 万円減り、388 万円で過去、最も少なくなった。

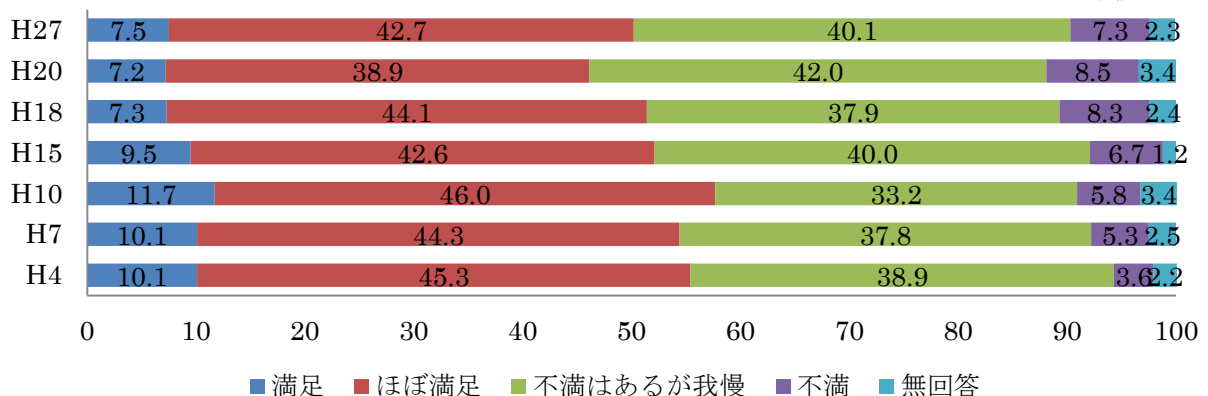


(7) 現住宅の総合評価 (家賃を考慮した場合)

「満足」「ほぼ満足」は過去減少してきていたが、今回の調査では増加となった。

「満足」「ほぼ満足」を合わせると 50.2%となり、平成 20 年度の調査に比べ 4.1%増加となる。

図中の数値は%



(8) 現住宅の項目別評価

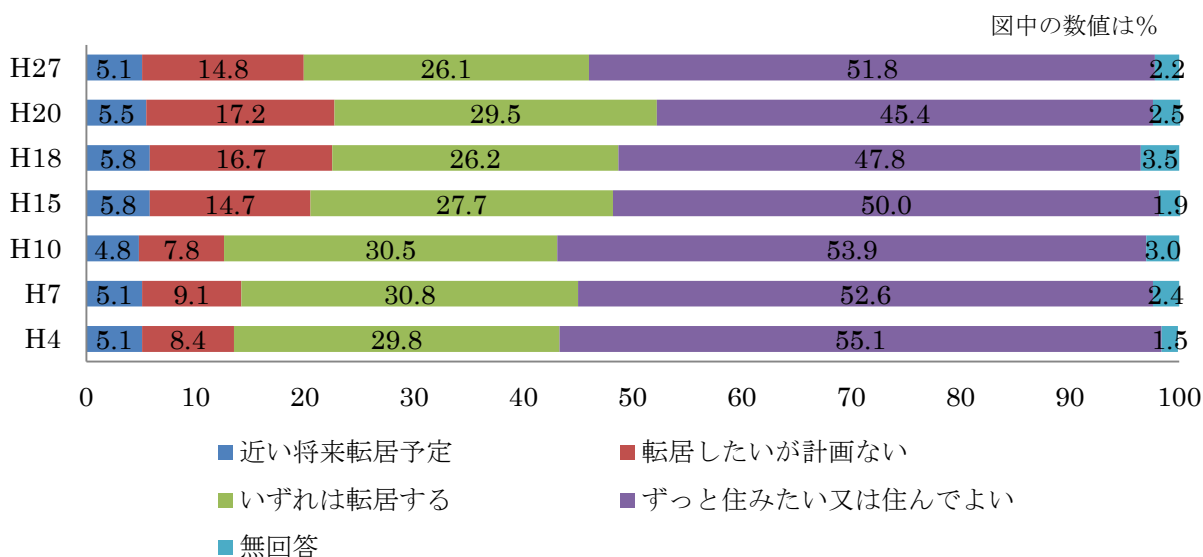
現在住んでいる住宅の個別評価について、良い評価は「日照」、悪い評価は「防露・防湿性能」となった。

良い 評価	第1位	日照	52.2%
	第2位	通風	50.1%
	第3位	緑	36.6%

悪い 評価	第1位	防露・防湿性能	60.4%
	第2位	浴室や便所の換気	52.4%
	第3位	各室の広さ	44.6%

(9) 今後の居住意向

「ずっと住みたい又は住んでよい」は、過去減少してきていたが、今回の調査では増加となった。平成20年度の調査に比べ、6.4%増加となる。



(10) 希望する高齢者のためのサービス

費用がかかっても希望する高齢者のための公的なサービスは、「在宅医療サービス」「デイケアサービス」「訪問看護サービス」が高い。また、公的以外のサービスは、「緊急時対応」が高い。

公的なサービス			公的以外のサービス		
第1位	在宅医療サービス	14.5%	第1位	緊急時対応	31.0%
第2位	デイケアサービス	14.4%	第2位	日常的な見守り	11.6%
第3位	訪問看護サービス	13.4%	第2位	食事宅配	11.6%

(11) 子育てを考える上で住宅や環境面の重要な点及び希望する子育てのためのサービス

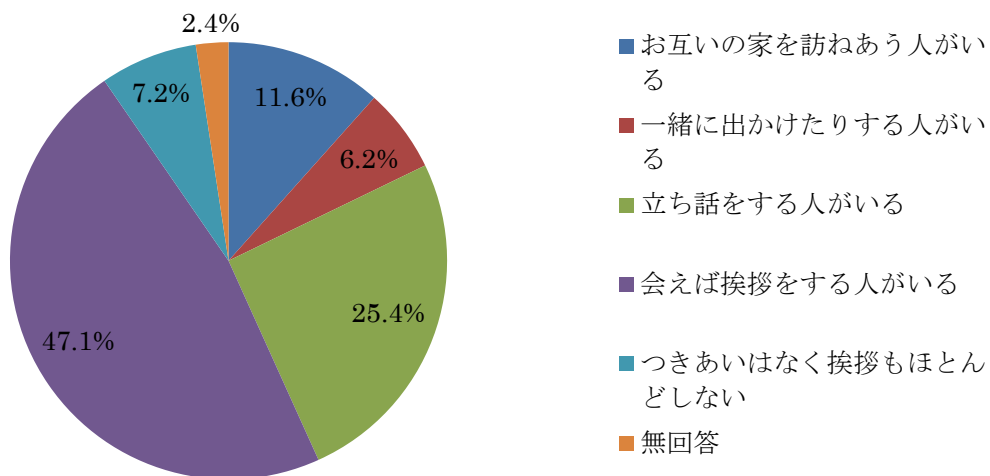
子育てを考える上で住宅や環境面の重要な点は、「住宅及び住宅まわりの防犯性」「遊び場、公園」「住宅の広さや間取り」が高い。また、希望する子育てのためのサービスは、「保育所」「学童保育施設」が高い。

子育てを考える上で住宅や環境面の重要な点			希望する子育てのためのサービス		
第1位	住宅及び住宅まわりの防犯性	35.4%	第1位	保育所	16.9%
第2位	遊び場、公園	33.2%	第2位	学童保育施設	16.5%
第3位	住宅の広さや間取り	32.3%	第3位	子育て・医療・健康相談	12.2%

(12) 団地・地域の居住者同士について

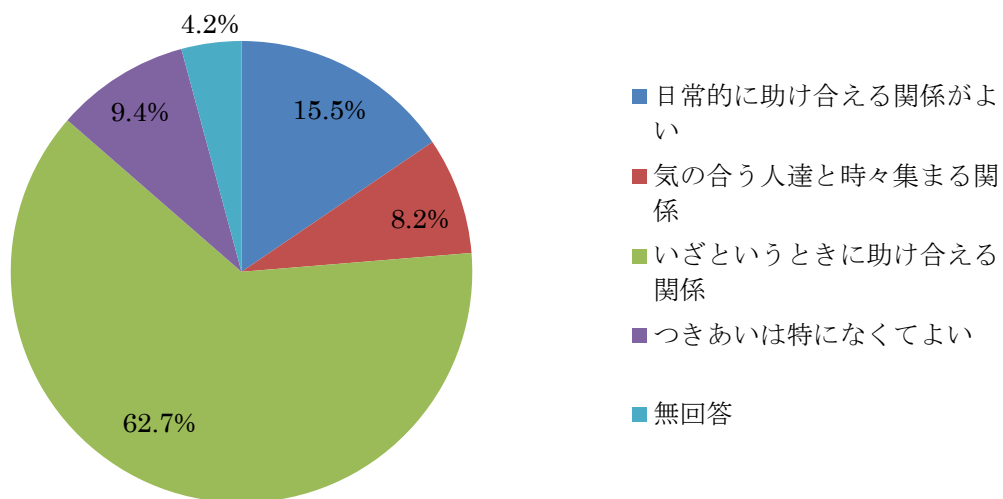
団地地域の居住者同士のつきあいの程度は、「会えば挨拶をする人がある」が高い。また今後のあり方としては、「いざというとき助け合える関係」を望む声が6割超と多く、つきあいを一切望まない方は1割未満である。

団地・地域の居住者同士のつきあいの程度



図中の数値は%

団地・地域の居住者同士の今後のあり方



図中の数値は%